

響ホール・国際村交流センター共用部 大規模改修事業

令和7年12月11日
都市ブランド創造局文化企画課

事業概要

○事業名 響ホール・国際村交流センター共用部大規模改修事業

○事業箇所 北九州市八幡東区平野一丁目1番1号

○事業期間 令和8年度～10年度

○概算事業費 25.6億円 (百万円)

事業費(概算)		財源内訳	
実施設計費	58.2	一般財源	840.9
改修工事費	2,441.8	国庫支出金 (防災・安全交付金)	37.5
工事監理委託費	53.6	地方債 【公適債(長寿命化)】	1,678.6
その他調査費用等	3.4		

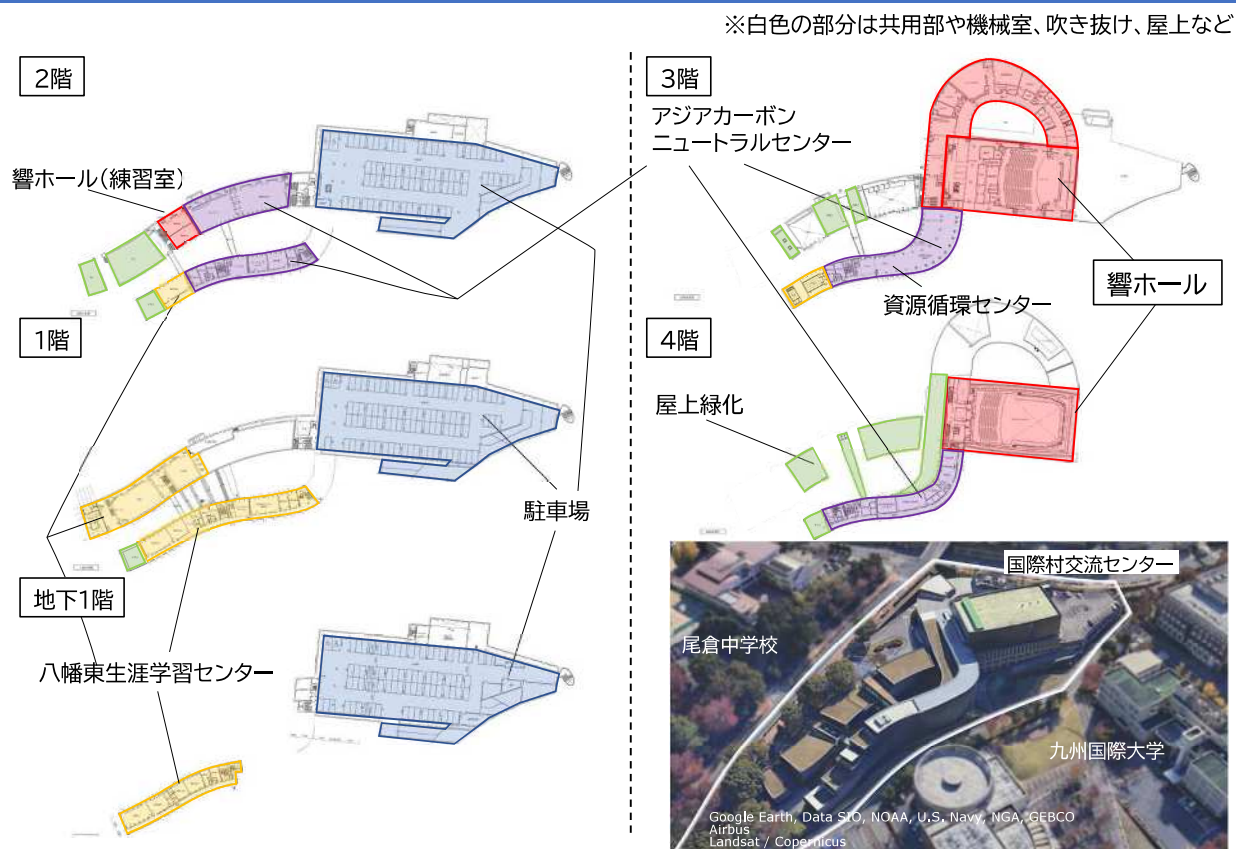
○事業内容 建築後30年以上が経過し、建物や設備の劣化が進んでいる複合施設・国際村交流センターについて、屋上や外壁の改修、共用設備の更新及び音楽ホールの改修等を行う。

国際村交流センターの概要

設立の経緯	○平成5年7月、北九州市の国際交流ゾーン(八幡東区平野地区)に、北九州国際交流協会や北九州技術協力協会(KITA)の活動拠点、音楽専用ホール、生涯学習センターからなる複合施設として整備。 ○平成26年の北九州国際交流協会のコムシティ移転後も、引き続き「国際村交流センター」の名称を使用している。												
住 所	八幡東区平野一丁目1番1号												
施 設 規 模	延床面積 17,860.09㎡ 鉄骨鉄筋コンクリート造(地上4階・地下1階)												
構 成 施 設	<table border="0"> <tr> <td>・北九州市立響ホール</td><td>3589.42㎡</td></tr> <tr> <td>・北九州市立八幡東生涯学習センター</td><td>1874.81㎡</td></tr> <tr> <td>・アジアカーボンニュートラルセンター</td><td>924.87㎡</td></tr> <tr> <td>・資源循環センター</td><td></td></tr> <tr> <td>・駐車場</td><td>9404.40㎡</td></tr> <tr> <td>・ほか共用部等</td><td>2066.59㎡</td></tr> </table>	・北九州市立響ホール	3589.42㎡	・北九州市立八幡東生涯学習センター	1874.81㎡	・アジアカーボンニュートラルセンター	924.87㎡	・資源循環センター		・駐車場	9404.40㎡	・ほか共用部等	2066.59㎡
・北九州市立響ホール	3589.42㎡												
・北九州市立八幡東生涯学習センター	1874.81㎡												
・アジアカーボンニュートラルセンター	924.87㎡												
・資源循環センター													
・駐車場	9404.40㎡												
・ほか共用部等	2066.59㎡												

3

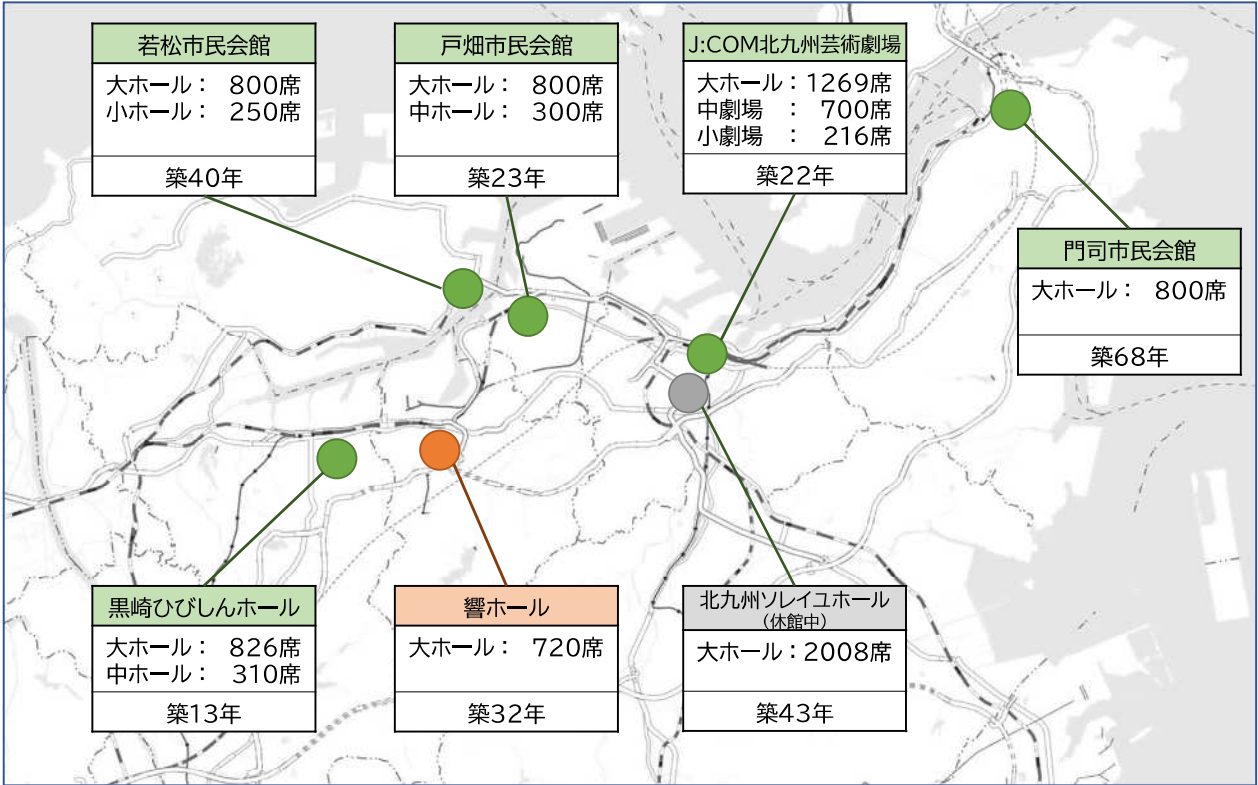
国際村交流センターの概要(フロア図、構成施設)



4

響ホールの概要(北九州市の文化ホール)

(令和7年4月1日現在)



響ホールの概要



事業の必要性(老朽化の状況)

【現状】

建物の老朽化により至る所で雨漏りが発生し、その影響で天井パネルが落下するなど安全性が脅かされており、長期的には建物の耐久性にも影響を及ぼす恐れがある。



【課題】

今後も利用者が安全に施設を使用でき、また、建物そのものの長寿命化を図るためには、早急な建物の改修が不可欠。

事業の必要性(老朽化の状況)

外壁に多くのひび割れが発生している



対処療法的に補修をしているが、抜本的に解消できていない

事業の必要性(老朽化の状況)

湧き水が壁から染み出てきて、コンクリートが剥離している



地下通路



事業の必要性(老朽化の状況)

水が染み出ており、湧き水と思われる



地下機械室



駐車場出入口



地下階段

事業の必要性(老朽化の状況)

＜屋上緑化の状況＞



＜生涯学習センター側通路＞



屋上緑化の一部を撤去し、防水対策を実施

→ この箇所は雨漏りが改善

11

事業の必要性(老朽化の状況)

市民が利用するスペースで天井落下事故が発生

[八幡東生涯学習センター2階入口](令和3年)



- 雨漏りのため、施設出入口の天井が膨張、剥離し落下。
- 出入口の上部にある渡り廊下の屋上緑化部分の排水処理がうまくなされず、雨水が浸水した。

[1階渡り廊下](令和3年)



- 渡り廊下内に浸水。

12

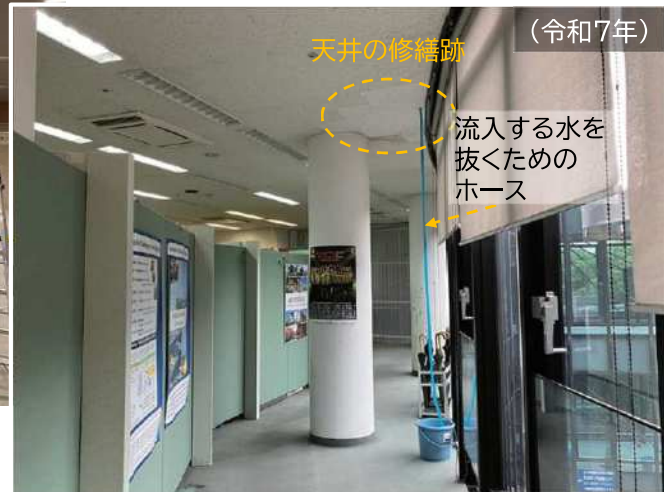
事業の必要性(老朽化の状況)

市民が利用するスペースで天井落下事故が発生

[国際村交流センター2階ギャラリー](令和3年)



- ギャラリー上階の渡り廊下の屋上緑化部分の防水シートが破れやコンクリートのクラックを通じてコンクリート内部に水が染み込み、天井ボード内部の空調配管用の穴に水が溜っていた。
- その穴から水が滴り、天井ボードを湿らせ、重みで天井ボードが落下したと考えられる。



- 雨水が流入するため、ホースを設置して水抜き。

13

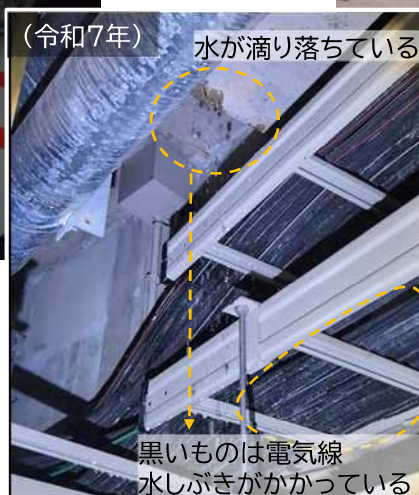
事業の必要性(老朽化の状況)

雨漏りが複数個所で発生

(令和7年)



ホール裏通路



14

事業の必要性(老朽化の状況)

【現状】

響ホールの舞台設備や施設全体で共用している電気・機械設備の多くは耐用年数を超えて使用しており、保守部品の欠品など、維持補修も困難になってきている。

特に、電気設備は施設の根幹に関わる設備であり、代替機器の調達に相応の期間を要する。



【課題】

機能が停止した場合に、急遽、数か月間全館休館しなければならないリスクが潜在的に高まっており、安心して施設を利用してもらうためには、早急な更新が必要。

15

事業の必要性(老朽化の状況)

施設整備当時に設置されたまま機器が更新されていない



冷温水発生器(空調設備)



ポンプ

しっかり保守がされており、外観はきれいだが、耐用年数を大幅に超過している空調設備の不調によりホールの利用を制限せざるを得なかった事例もある

16